

log($\sqrt{2}+1$)の値を筆算する

うら とし お
裏 俊男

§1. はじめに

3年生の数学Ⅲの夏休みの宿題として、関数のグラフ作成を課した中に

「 $y = \frac{1}{e^x + e^{-x}}$ のグラフの変曲点を求めよ。」

という問題を入れた。

変曲点は、 $(\pm \log(\sqrt{2}+1), \frac{\sqrt{2}}{4})$ である。変曲点の x 座標と y 座標を求めるのが題意だから、図示する必要はないのだが、グラフの概略を書き、変曲点を入れるとすると、 y 座標は問題なからうが、 x 座標のほうは…?

「 $\sqrt{2}+1=2.4142\dots$, $e=2.7182\dots$ で

$\sqrt{2}+1$ は e よりちょっと小さいから

$\log(\sqrt{2}+1)$ は1よりちょっと小さい値」

教室の黒板でグラフを書いてみせるとき、これで全く問題なからうが、「1よりちょっと小さい値」って、具体的には?

関数電卓など、それを必要としない人のスマートフォンの中にもアプリとして入っている時代である。とりあえず値を知るのはいけない。

$\log 2.41421356=0.88137358\dots$

しかし、電卓に頼らずとも計算できることは確認しておきたいものである。

§2. 常用対数と同じように

常用対数の場合は、

$2^{10} \doteq 10^3$ より, $\log_{10} 2 \doteq 0.3$

$3^4 \doteq 2^4 \cdot 5$ より, $\log_{10} 3 \doteq 0.475$ 等々

というのがあった。

同様のことをしてみる。

$e^1 \doteq 2.7 = \frac{3^3}{2 \cdot 5}$ より, $1 = -\log 2 + 3\log 3 - \log 5$

$e^3 \doteq 20 = 2^2 \cdot 5$ より, $3 = 2\log 2 + \log 5$

$e^5 \doteq 144 = 2^4 \cdot 3^2$ より, $5 = 4\log 2 + 2\log 3$

(e^3 は, $e=2.7$ とすると $e^3=19.683$

$e=2.7182\dots$ とすると $e^3=20.0855\dots$

となるので, $e^3 \doteq 20$ は問題なからうが、

e^5 は, $e=2.7$ とすると $e^5=143.4890$

$e=2.7182\dots$ とすると $e^5=148.4131\dots$

となるので, $e^5 \doteq 144$ は少々くい違うが、

$144=2^4 \cdot 3^2$ だから都合がよい。)

この連立方程式を解いて

$\log 2 \doteq 0.7$, $\log 3 \doteq 1.1$, $\log 5 \doteq 1.6$

を得るので、

$$\begin{aligned}\log(\sqrt{2}+1) &\doteq \log 2.4 = \log \frac{2^2 \cdot 3}{5} \\ &= 2\log 2 + \log 3 - \log 5 \\ &\doteq 2 \times 0.7 + 1.1 - 1.6 \\ &= 0.9\end{aligned}$$

§3. もうちょっと精密に

物理の本〔1〕に常用対数を計算する方法が紹介されていたのを思い出し、同じ方法を使ってみた。

開平の筆算の仕方は参考書〔2〕などや、教科書によっては紹介されており、開平 $\sqrt{\quad}$ は $\frac{1}{2}$ 乗することだから、繰り返すことによって結局、対数が $\frac{1}{2^n}$ となる真数の値を筆算できることになる。これ

を用いて、与えられた真数の対数を2進展開

$$\frac{a_1}{2} + \frac{a_2}{2^2} + \frac{a_3}{2^3} + \dots, \quad (a_n=0, 1)$$

の形で求めようというのがアイデアである。

以下、具体的に計算してみる。

まず、開平を筆算して各 $e^{\frac{1}{2^n}}$ を準備する。

$e=2.71828$ とすると

$e^{\frac{1}{2}} = \sqrt{e} \doteq 1.64872,$

$e^{\frac{1}{4}} = \sqrt{e^{\frac{1}{2}}} \doteq 1.28402,$

$e^{\frac{1}{8}} = \sqrt{e^{\frac{1}{4}}} \doteq 1.13315,$

$$\begin{aligned}
e^{\frac{1}{16}} &= \sqrt{e^{\frac{1}{8}}} \doteq 1.064495, \\
e^{\frac{1}{32}} &= \sqrt{e^{\frac{1}{16}}} \doteq 1.031744, \\
e^{\frac{1}{64}} &= \sqrt{e^{\frac{1}{32}}} \doteq 1.015748, \\
e^{\frac{1}{128}} &= \sqrt{e^{\frac{1}{64}}} \doteq 1.0078432, \\
e^{\frac{1}{256}} &= \sqrt{e^{\frac{1}{128}}} \doteq 1.0039139, \\
e^{\frac{1}{512}} &= \sqrt{e^{\frac{1}{256}}} \doteq 1.0019550, \\
e^{\frac{1}{1024}} &= \sqrt{e^{\frac{1}{512}}} \doteq 1.00097702
\end{aligned}$$

次に、 $e^{\frac{1}{2^n}}$ を順次くくり出す。

$$\sqrt{2} + 1 = 2.41421 \text{ として,}$$

$$e^{\frac{1}{2}} < \sqrt{2} + 1 < e$$

だから、(割り算もちろん筆算する)

$$(\sqrt{2} + 1) \div e^{\frac{1}{2}} \doteq \frac{2.41421}{1.64872} \doteq 1.46429$$

$$e^{\frac{1}{4}} < \frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}}} < e^{\frac{1}{2}}$$

だから、

$$\frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}}} \div e^{\frac{1}{4}} \doteq \frac{1.46429}{1.28402} \doteq 1.14040$$

$$e^{\frac{1}{8}} < \frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}}} < e^{\frac{1}{4}}$$

だから、

$$\frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}}} \div e^{\frac{1}{8}} \doteq \frac{1.14040}{1.13315} \doteq 1.0063981$$

$$e^{\frac{1}{256}} < \frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}e^{\frac{1}{8}}}} < e^{\frac{1}{128}}$$

だから、

$$\frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}e^{\frac{1}{8}}}} \div e^{\frac{1}{256}} \doteq \frac{1.0063981}{1.0039139} \doteq 1.0024745$$

$$e^{\frac{1}{512}} < \frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}e^{\frac{1}{8}}e^{\frac{1}{256}}}} < e^{\frac{1}{256}}$$

だから、

$$\frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}e^{\frac{1}{8}}e^{\frac{1}{256}}}} \div e^{\frac{1}{512}} \doteq \frac{1.0024745}{1.0019550} \doteq 1.00051849$$

[1]では微分の知識を前提とせず、各 $10^{\frac{1}{2^n}}$ の計算において、 $s = \frac{1}{2^n}$ が小さくなってゆくと $\left(\frac{1}{2}\right)$ 乗する毎に小数点以下が半減してゆく様子から

$\frac{10^s - 1}{s}$ がほぼ一定値の 2.3025 (実は $\log_e 10$) になることを観察し、

$$\frac{10^s - 1}{s} \doteq 2.3025$$

より

$$10^s \doteq 1 + 2.3025s$$

すなわち $s = \frac{A}{1024}$ として

$$10^{\frac{A}{1024}} \doteq 1 + \frac{2.3025A}{1024}$$

を使ってくり出しの最後を閉めている。

これに倣い、各 $e^{\frac{1}{2^n}}$ の値の準備のところで、

$s = \frac{1}{2^n}$ が小さくなれば

$$\frac{e^s - 1}{s} \rightarrow 1$$

となる様子が見えるから (微分の理解があれば当然だが) 数Ⅲでも登場する 1 次近似式

$$e^s \doteq 1 + s$$

が得られ、

$$1.00051849 \doteq e^{0.00051849}$$

よって、

$$\frac{\sqrt{2} + 1}{e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}e^{\frac{1}{8}}e^{\frac{1}{256}}e^{\frac{1}{512}}}} \doteq e^{0.00051849}$$

$$\begin{aligned}
\therefore \sqrt{2} + 1 &\doteq e^{\frac{1}{2}e^{\frac{1}{4}}e^{\frac{1}{8}}e^{\frac{1}{256}}e^{\frac{1}{512}}} e^{0.00051849} \\
&= e^{\frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{256} + \frac{1}{512} + 0.00051849}
\end{aligned}$$

結局、

$$\begin{aligned}
&\log(\sqrt{2} + 1) \\
&\doteq \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{256} + \frac{1}{512} + 0.00051849 \\
&= 0.881377865
\end{aligned}$$

筆算でも、小数点以下 5 桁まで正確に求めることができた。

《参考文献》

- [1] ファインマン物理学 I 力学第 22 章代数
岩波書店
- [2] チャート式基礎からの数学 I + A 数研出版
(東京都立小山台高等学校)